



バックナンバー

News Letter

第31号



■ 巻頭言

熊本学園大学外国語学部教授
外国語学部長 塩入 すみ

今年4月に外国語学部長に就任しました塩入です。専門は日本語教育で、日本語教員養成課程を担当しています。

例年この課程の履修生の半分が東アジア学科の学生です。東アジア学科の学生には、躊躇うことなく海外に飛び立ち、異文化で生き抜く力をもった人材が多く、県内外の専門学校や中国の大学で日本語教員として活躍する卒業生もおり、私の誇りです。

□ ■ □ 学科の最新ニュース！ □ ■ □

オープンキャンパス(1回目 7月24日、2回目 8月10日、8月27日)が順次開催されています。学科紹介や模擬授業、個別相談会を通して、生徒の皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

異文化の壁を越え、多様な文化をもつ人々と交渉し共存する力こそ、グローバリゼーションという美しい果樹を支える太い根の部分であり、その根幹を形成するのは言語に他なりません。自動翻訳の開発も急速に進む中、コロナ禍というコミュニケーションへの挑戦を経て、言語を学ぶ私たちは改めて、「言語を使って何をするのか」という問いを鋭く突きつけられています。学生たちが4年間でその答えを見つけられるような学部でありたいと願っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

□ 研究紹介——中国文法の基礎教育について

東アジア学科教授 李 珊 (中国語学)

次のようなミスが生じます。

3. 〈誤〉我和他見面過。
〈正〉我和他見過面。
(私は彼と会ったことがあります。)
4. 〈誤〉我没和他說話過。
〈正〉我没和他說過話。
(私は彼と話したことはありません。)

私が東アジア学科2、3年生の中国語作文の授業を担当するようになって、はや八年が経とうとしています。私はこの授業での教学経験を通じて、中国語基礎文法の重要性を改めて思い知らされました。例えば、経験を表す“過”の用法を例に見てみましょう。中国語では、「したことがあります」という経験は、「動詞+“過”+(目的語)」の形で表します。

1. 我看過过柚子樂隊的演唱會。
(私はゆずのコンサートに行ったことがあります。)
2. 我没看過过《鬼滅之刃》。
(私は『鬼滅の刃』を見たことはありません。)

こうした単純な「動詞+“過”」の形であれば学生たちはすぐに理解し、運用することができます。しかし、「離合動詞+“過”」の形となると、すぐに間違えが生じます。なぜなら、学生たちにとって、動詞+目的語からなる「離合動詞」は新しい概念だからです。離合動詞には、「見面(会う)」「説話(話をする)」「理髮(散髪する)」「遊泳(泳ぐ)」などがあるのですが、この場合、動詞の直後に経験を表す“過”を置かなければなりません。しかし、学生にはどれが「離合動詞」なのかを判断するのが難しく、

これを踏まえて、私は経験を表す語句を練習する時には、できるだけ「離合動詞」を使うようにしています。

ここ数年、私は私たち東アジア学科の学生が学ぶのに適した、新しい教材を作成しています。学生たちは母語である日本語の影響を受けやすいので、中国語と日本語の発想の違いをよく理解したうえで、教材に反映させていきたいと考えています。

どうすれば学生たちが日本語に縛られずに中国語の文法的な特徴をつかみ、回り道をせずに学んでいくことができるのか、どうすれば学生たちのより良い理解に繋がるのかを考えています。学生たちに中国語を教える際に、何を強調し、どの文法事項をより詳しく説明するべきなのか、私の今後の研究テーマです。

■ □ 入試情報 □ ■

総合型選抜： 出願期間 10月3日(月)～12日(水) / 試験日：10月23日(日)
学校推薦型選抜：出願期間 11月1日(火)～10日(木) / 試験日：11月27日(日)

■ 「出張日記」に代えて

コロナで海外出張はないものの、日韓の高校における「探究的な学習（韓国では「創意的体験活動」）」の国際比較研究のメンバーとして、週に1回程度オンラインベースで打ち合わせを行っている。相手が海外にいても隙間時間で打ち合わせをするといった感じは、まさに日常そのものであり、何だか味気ない。

それはさておき、昨年度末に教師や生徒を含め数千人規模のアンケート実施に向けて調整していたときのこと。オンライン調査ということもあり、依頼すればスムーズな回答が得られるものと高を括っていた。ところが、後でわかったことだが、3月は新学期の開始時期というこ

東アジア学科特任准教授 金 美連（比較教育学）

ともあり、教師の繁忙感を解消し教えることへ集中するための取組みとして、公文書による学校への依頼も禁止されていた。このため、アンケートの開始時期は2カ月も遅れたが、教師の多忙化の解消のためには、これ位の措置が必要なものと納得することとした。

また、生徒へのアンケート協力への意思確認など、昔と比べ、学校文化もずいぶん様変わりしたと感じさせられた出来事であった。トップダウンで政策を実施する韓国ならではの变化ともいえるが、新大統領のもとでの更なる改善を期待したい。

□ 東アジアへのまなざし

夏目漱石の門下生である安倍能成は、京城帝国大学法文学部の西洋哲学教師として1926年から40年まで約15年間、朝鮮に滞在した。その間、彼は朝鮮の自然や風俗、文化を愛し、数多くの随筆を残している。「京城とアテネ」もその一つである（『文藝春秋』1928年11月初出）。

植民地統治下の京城（現在のソウル）とギリシャのアテネとの比較は、一見唐突な印象をあたえるが、ヨーロッパ留学でアテネを訪れた経験から、着任早々に両者が似ていると直感したというのである。安倍はその第一の理由として、「実に澄み渡った濃青の空と乾いた白い地面」

東アジア学科准教授 土井 浩嗣（朝鮮史）

を挙げる。そして、確かにアテネは「京城よりも乾いた都会」だが、「我々の雨の多い都、東京に比べるならば、京城も亦立派に乾いた都会である」と続ける。

近年、温暖化の影響もあってか、ソウルでも以前に比べれば湿度が増したように感じられる。しかし、気温も高く降水量も多い熊本から見れば、やはりソウルははるかに乾燥した都市であろう。安倍は「京城の乾いた空気は心身に爽快である」と率直に記しているが、私も久しぶりに、北岳山を背景にした景福宮の上に広がる、突き抜けるようなさわやかな濃青の空を見たいといま願っている。

■ 新書紹介 赤松美和子・若松大祐編著『台湾を知るための72章【第2版】』明石書店（2022年）

どこかの国や地域について広く理解したいという時には、明石書店が出しているエリア・スタディーズのシリーズが重宝する。『〇〇を知るための〇〇章』というタイトルで多数のラインナップが用意されており、必要な章だけ読めば理解できるように作られている点も便利なので学生にもおすすめしている。



本書は台湾に関係するトピックを、最新の情報まで含め網羅的にカバーしている。42名の著者がそれぞれの専門分野について執筆しているため信頼性が高く、読みやすい文体ながら内容は深い。ご存じのとおり、現在熊本では半導体大手の台湾企業 TSMC が工場を建設中である。まず第17章「工業——世界のハイテク請負アイランド」から

読み始め、それから人物（TSMC 創業者の張忠謀も登場する）や歴史、政治の章に進むというのはどうだろうか。工場進出にあわせて台湾との交流は今後さらに活発になっていくと思われる。この本は、よりよい台湾（人）理解のための必読書である。

東アジア学科准教授 田上 智宜（台湾地域研究）

■ 編集後記 ■

■ 6月から外国人観光客の受け入れが再開されました。今後は東アジアなどを中心に、徐々に外国人観光客が増えていくことが見込まれています。在留外国人を含む東アジアの人々との交流機会が拡大することは、本学科で学ぶ学生たちのモチベーション向上につながるものと期待しています。(J)

発行者 熊本学園大学外国語学部東アジア学科
編集人 小笠原 淳（東アジア学科長）
〒860-8680 熊本市中央区大江2-5-1
Tel 096-364-5161（代表）

17章「工業——世界のハイテク請負アイランド」から